地方独立行政法人 埼玉県立病院機構

埼玉県立がんセンター
診療案内 2025

森の中にある
人にやさしい
高度医療機関をめざして

Saitama Prefectural Cancer Center Medical Information

基本理念　唯惜命 ～ただ命を惜しむ～

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

基本方針

埼玉県立がんセンターは、次の基本方針のもとに、「先進的ながん医療を実践する進化する病院」・「日本一患者と家族にやさしい病院」をめざします。

1. 患者さん中心のチーム医療	2. 高度・先進的な医療	3. 地域医療連携の推進
4. 職員の教育・育成と質の向上	5. 診療情報等の適正管理	6. 患者と職員が宝物

沿革

1975年11月	がんセンター開設（100床）
1977年4月	200床となる
1998年10月	400床となる（東館）
2003年8月	地域がん診療拠点病院指定
2008年2月	都道府県がん診療連携拠点病院指定
2013年12月	新病院開業（503床）
2016年3月	日本医療機能評価機構認定
2019年9月	がんゲノム医療拠点病院指定
2021年4月	地方独立行政法人に移行
2025年11月	開設50周年

施設概要

名称：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター
住所：埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780番地　TEL：048-722-1111（代表）
【許可病床数】503床
【主な承認・指定】都道府県がん診療連携拠点病院　がんゲノム医療拠点病院
DPC対象病院　紹介受診重点医療機関

目次

P5 -------- 血液内科
P6 -------- 緩和ケア科
P7 -------- 乳腺腫瘍内科
P8 -------- 乳腺外科
P9 -------- 消化器内科
P10 ------ 内視鏡科
P11------- 消化器外科
P13------- 精神腫瘍科／心療内科
P14------- 脳神経外科
P15------- 呼吸器内科
P16 ------ 胸部外科
P17------- 整形外科
P18------- リハビリテーション科
P19------- 形成外科
P20 ------ 婦人科
P21 ------ 頭頸部外科
P22 ------ 皮膚科／麻酔科
P23 ------ 泌尿器科
P24 ------ 歯科口腔外科
P25 ------ 放射線治療科
P26 ------ 放射線診断科／病理診断科
P27 ------ 遺伝科
P28 ------ 総合内科／臨床検査科
P29 ------ がんゲノム医療センター
P29 ------ 分子病理・デジタル病理診断センター
P30 ------ 治験管理室／低侵襲手術センター
P31 ------ 希少がん・サルコーマセンター
通院治療センター
P32 ------ 患者サポートセンター
P33 ------ 看護部／放射線技術部
P34 ------ 検査技術部／薬剤部
P35 ------ 栄養部／臨床工学部
P36 ------ 医療安全管理室／感染管理室
P37 ------ 臨床腫瘍研究所

病院長あいさつ

埼玉県立がんセンターは埼玉県民の皆様に良質ながん治療を提供することを目的として昭和50年（1975年）に開設されました。当初は100床の病院としてスタートしましたが、地域のニーズに合わせて増床を重ね、現在は503床を有する大病院となっております。がん患者さんの急増を背景として平成18年（2006年）にはがん対策基本法が施行されました。当センターも具体的な施策を定めたがん対策推進基本計画にのっとり、最新の治療を導入、療養環境や支援体制の整備に積極的に取り組んでいます。

がん治療の大きな柱である手術においては、患者さんへの負担が少なく傷の小さいロボット支援手術を他施設に先駆けて導入し、多くの実績を上げています。放射線治療にも力を入れており、放射線を対象臓器の形状に合わせて調節できるIMRT（強度変調放射線治療）、前立腺がんに対する密封小線源治療など、病状に合わせたきめ細かい治療を行っています。薬物療法としては従来の抗がん剤治療の他に患者さん自身の免疫の力を引き出す免疫チェックポイント阻害剤を積極的に取り入れて、進行したがんでも病状を改善できるようになっています。薬物療法の多くは国内有数のベッド数を誇る通院治療センターにて通院で行っており、社会生活への負担にならないように配慮しております。最近、患者さんの遺伝子を調べて有効な薬物療法を探すがんゲノム医療が普及しつつありますが、当センターはがんゲノム医療拠点病院として周辺の連携医療機関と協力し、がんの状態に適した治療を提供すべく努力を重ねております。

この度、患者さんおよび地域医療機関の皆様を対象として、「診療案内」を作成いたしました。当センターへご紹介いただく際のガイドブックとして活用いただければ幸いです。

埼玉県立がんセンター
病院長　影山 幸雄

患者さんの権利

埼玉県立がんセンターでは「唯惜命」の理念に基づき、患者さんの権利を尊重した医療の提供に努めております。

患者の皆様には、これらの権利を適切に行使して、私たち医療従事者と共に力をあわせ、治療に参画されることを期待します。

1. 良質な医療を受ける権利
2. 医療情報の提供を受ける権利
3. 自己決定権
4. 医療情報を知る権利
5. セカンドオピニオンを得る権利
6. プライバシーが守られる権利
7. 人間として尊厳を得る権利

患者さんへのお願い

新しい薬の臨床治験や新しい治療法の開発のための臨床試験、患者サービス向上のためのアンケート調査などにご理解・ご参加をお願いすることがあります。

すべて臨床試験審査委員会、倫理審査委員会での審議を経て承認されたものです。ご同意がいただけた場合のみ手続きを行います。

がん医療の発展のためにご協力をお願いします。

受診のご案内

●初診予約の手順

当センターは「紹介制」となっています。初めて受診される方は、当センター宛先とする紹介状（診療情報提供書）または健康診断の結果が必要です。また、完全予約制となっておりますので、オンライン予約システム「C@RNA Connect」をお使いになるかまたは患者サポートセンター地域連携に直接電話でご相談ください。患者さんが直接予約専用電話を使って予約をお取りいただく方法もございます。（C@RNA Connectで予約を取る場合は次ページを参照してください。）

電話予約を利用される場合は、下記の番号を患者さんにお伝えください。午前中は電話が集中し、たいへんつながりにくくなっております。あらかじめご了承ください。

予約専用電話番号　048-722-3333
受付時間　平日の午前８時30分から午後5時
（休日及び年末年始（12/29～1/3）を除く）

●診療日・診療時間

診療科によっては、診療しない曜日があります。詳しくは外来スケジュール（下記QRコード）をご覧ください。

診察受付時間　平日の午前８時30分から午後5時
（休日及び年末年始（12/29～1/3）を除く）

●初診当日の持ち物

受診当日は下記のものをお持ちいただくように患者さんにご説明ください。

・保険証またはマイナンバーカード
・診療情報提供書（C@RNAシステム内で記載された場合はご持参いただく必要はありません。）または健康診断の結果
・検査データ（フィルム、CD－ROM等）
・お薬手帳（手帳をお持ちでない場合は現在服用している薬の現物をお持ちください。）

C@RNA Connect（カルナコネクト）のご案内

C@RNA　Connectはオンラインで診療（初診）予約が取れるシステムです。

24時間365日外来診療科の診療（初診）予約受付が可能

●主なメリット

・医療機関の先生方の空いた時間に24時間365日予約が可能です。
・電話予約枠とは別にカルナコネクト専用枠を設けているので、電話予約が埋まっている場合でも早い予約が取れます。
・空き状況が一目でわかり、患者さんとその場で予約ができます。
・担当医の指定ができます。また担当医を問わない予約も可能です。
・予約日時の変更やキャンセルも簡単にできます。
・インターネット環境があればすぐに予約可能で、プリンターと接続があれば、「案内状」を印刷して渡すことができます。

●予約可能診療科

（外科系）乳腺外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、婦人科、頭頸部外科、泌尿器科、胸部外科、消化器外科、皮膚科、歯科口腔外科
（内科系）呼吸器内科、消化器内科、血液内科、乳腺腫瘍内科、遺伝科

セカンドオピニオンのご案内

●対象者

患者さん本人又はそのご家族で、主治医にセカンドオピニオンの紹介状を書いていただいた方です。入院中などの事情により患者さん本人が来院できない場合は、患者さん本人の同意書が必要です。

●お申し込み方法

主治医に紹介状を書いていただいた後、予約専用電話により予約をお取りください。

予約専用電話番号　048-722-3333
受付時間　平日の午前８時30分から午後5時
（休日及び年末年始（12/29～1/3）を除く）

●相談時間と料金

健康保険は使えません。基本料金は（30分まで）11,200円（税込み）となります。また30分を超えた場合、以降30分ごとに5,600円（税込み）を加算します。なお、時間には文書作成の時間を含みます。
詳細はHP（https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/center/second_opinion_1.html）をご参照ください。

（令和7年4月1日時点）

血液内科

対象疾患
造血器腫瘍全般

1 特性

インフォームド・コンセントに基づく診療を心がけており、患者さんと相談した上でQOLをより高めうる治療法を選択しています。強力な化学療法を行うことで、治癒率の向上だけでなく、治療期間を短縮し、早期に社会復帰を可能とするような治療法の確立を目指します。移植基準認定カテゴリー1の移植施設であり、県内初の常勤のHCTC（造血細胞移植コーディネーター）を配置、臨床検査科や総合内科、各検査室と連携することで、診断から造血幹細胞移植までトータルの治療が可能です。長期フォローアップ外来（LTFU）では、移行医療を念頭に置いた小児・AYA世代にも途切れないフォローアップの充実を目指します。がんゲノム医療拠点病院として、がん遺伝子パネル検査にも精力的に取り組み、造血器腫瘍遺伝子パネルの導入に向け、更なる体制の充実を図ります。

2 診療実績

2013年からの骨髄バンクの累積骨髄採取件数は、埼玉県内トップクラスの件数です。

【新規外来患者数】

	2021年	2022年	2023年
急性骨髄性白血病	14	11	16
急性リンパ性白血病	5	3	10
多発性骨髄腫	12	12	22
悪性リンパ腫	132	129	101
他	11	12	36
計	**174**	**167**	**185**

3 地域の先生方へ

造血器腫瘍の高度専門医療を遂行するためには、県内の大学病院や総合病院、多くのクリニックの先生方との連携が不可欠です。これまで治療困難だった高齢者や難治性造血器腫瘍は、分子標的薬など新薬の登場、細胞療法の多様化により患者数が増加しています。解決しなければならない問題は多いですが、センターの理念に基づき、患者さんやご家族から信頼されるように精進してまいります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

日本自己血輸血・周術期輸血学会の認定看護師、日本がん・生殖医療学会認定ナビゲーターの有資格者を配します。安全な自己血採取、思春期・若年成人AYA世代のがんの妊孕性温存にも手厚いサポートを行っています。

関口 康宣

科長兼診療部長

日本内科学会総合内科専門医
日本血液学会専門医
日本造血・免疫細胞療法学会認定医

その他スタッフ

工藤 昌尚
副部長

川村 眞智子
副部長

堤 大樹
医長

新井 康祐
医長

浜野 しずか
医員

飯崎 淑恵
造血細胞移植
コーデイネーター（HCTC）

緩和ケア科

対象疾患
がん闘病中のすべての期間における、生活や治療の支障となる不快な症状 （痛み、痺れ、呼吸困難、食欲低下、吐き気、気持ちの辛さ、等々）

1 特性

がんに伴い生じる様々な症状に対処し、がん治療期はもちろんのこと、終末期のQOLの維持や療養の手助けができるようにスタッフ一丸で取り組んでいます。他科との協力体制も充実しており、緩和目的の放射線治療のみならず症状やQOLの改善に資するものであれば外科手術やドレナージ、内視鏡治療なども積極的に行なっています。

また病院最上階である10階はフロア全てが緩和ケア病棟となっており、終末期の療養はもちろんのこと集中的に症状緩和に取り組み速やかに在宅療養が可能な状態になるように調整を行う緊急緩和ケア病棟としての役割も有しております。看護師やリハビリ部門も熟練のスタッフが揃っており、薬剤だけではない多角的なアプローチで症状緩和を実現しています。なお当センターの周囲には高い建物がありません。晴れた日には、病棟から富士山や丹沢、秩父、越後の山々を望むことができます。素晴らしい眺望の中で療養ができることも特徴の一つです。

2 診療実績

【2021年～2023年の年間患者数平均】
緩和ケアチーム（外来）：250～300名
緩和ケアチーム（入院）：400～500名
緩和ケア病棟入退院数：450～500名

3 地域の先生方へ

当センターかかりつけではない患者さんについても、症状緩和や今後の緩和ケア病棟の利用のご相談をお受けしております。紹介は全て地域医療連携室を通していただく体制となっており、具体的な手続きやご準備いただくものについては緩和ケア科のホームページもご参照ください。

緩和ケアへのニーズの高まりとともに院内・院外から非常に多くの紹介・問い合わせをいただいております。ご迷惑をおかけしてしまうことも多いかと存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介

髙塚 直能	山中 駿	細沼 里江	杉浦 徳子	上田 健
科長代理	医長	医長	医員	医員

乳腺腫瘍内科

対象疾患
乳がん・甲状腺がん

1 特性

早期乳がんの術前・術後薬物治療、転移再発乳がんの薬物治療、甲状腺がんの薬物療法治験・臨床試験を多数施行しています。

乳腺外科、乳腺腫瘍内科、形成外科が同じ病棟にあり、日頃からコミュニケーションを取りながら横断した連携体制を取り、治療に取り組んでいます。また、乳がん看護認定看護師をはじめとする各スタッフが連続的に患者さんを受け持つことにより、どの治療のステージにおいても同じチームで患者さんをサポートすることができます。

2 診療実績

【治療件数】

		2021年	2022年	2023年
外来	化学療法	5,235	5,317	5,033
入院（実患者数）	転移性	126	117	159
	術前化学療法	51	79	103
	術後化学療法	128	81	96
	他	16	8	12

3 地域の先生方へ

乳がん領域は新規薬剤が次々と承認され、治療体系がとても複雑化しています。また、手術可能であっても術前化学療法が標準とされるタイプの乳がんも明らかになっています。標準治療としてガイドラインに位置付けられている新規薬剤の投与が難しい場合などは、お気軽にご相談・ご紹介ください。地域の乳がん患者さんの予後改善のため役割を積極的に担いたいと思います。よろしくお願いいたします。

◀入院室の様子

スタッフ紹介

永井 成勲

科長兼診療部長

日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本乳がん学乳腺認定医

その他スタッフ

高井 健
医長

山田 遥子
医長

坪井 美樹
医長

乳腺外科

対象疾患
乳がん・乳腺疾患

1 特性

放射線技術部、検査技術部（生理検査室）、病理診断科、遺伝科と協力しつつ診断をしています。画像診断は専門の技師が検査をし、正しい診断を目指して医師と診断、所見の擦り合わせをします。組織診断は乳腺専門の病理医により、詳しく正確な診断をしています。BRCAなどの遺伝子検査を含む遺伝診療は、遺伝科の充実したスタッフ（専門医・認定遺伝カウンセラー）と主治医が協力して対応しています。またがんゲノム医療拠点病院として、がんゲノム医療センターが中心となり周辺医療機関と連携して埼玉県のゲノム医療の推進に努めています。

手術は乳腺外科、乳房再建は形成外科、放射線療法は放射線治療科、薬剤治療（特に抗がん剤や分子標的治療、免疫療法など）は乳腺腫瘍内科のそれぞれ専門医が治療を担当します。各専門医と情報を共有しながら患者さん一人ひとりに適した治療を選択しています。近年はがんを確実に切除するとともにより良い整容性が求められるようになりました。根治性と整容性の両立が達成可能な範囲で、乳房温存術や乳房切除（+再建術）術の術式選択を希望も含めて決めています。2005年に形成外科が開設され、近年では乳房切除後の再建手術（自家組織・人工物）を受ける方が少しずつ増加しています。

臨床試験（JCOG、JBCRG、SNNS研究会、がん生殖医療など）や腫瘍内科と協力しての治験など、医療の進歩に向けた事業にも参画しています。また乳がん診療は進歩とともに複雑になっていますので、前述の連携に加えて看護部門、相談支援センター、リハビリテーション部門、生殖医療施設などと協力し、より良い患者サポートを目指しています。

2 診療実績

2004年から年間400人を超える乳がん患者さんが手術を受けています。

【手術件数】

	2021年	2022年	2023年
乳房切除術	239	225	280
乳房部分切除術	174	164	189
その他乳腺関連手術	129	115	123

3 地域の先生方へ

多くの患者さんをしっかり診療するため、今後は「紹介患者さんを受け、安定したら地域にお返しする」（地域密着型医療）を積極的に進めていきます。今後ともご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

松本 広志

科長兼診療部長

医学博士
日本外科学会専門医・指導医
乳腺専門医

その他スタッフ

戸塚 勝理
副部長

久保 和之
医長（形成外科兼任）

消化器内科

対象疾患
食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、膵がん、胆道がん、GIST、神経内分泌腫瘍など

1 特性

抗がん剤治療を中心に個別化医療を重視し、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など最新薬剤を積極的に採用すると共に、副作用を抑えつつ治療効果を最大化することを目指しています。「転移・再発の防止」を重点課題とし、患者さんの生活の質（QOL）向上に取り組んでいます。また、消化器外科や内視鏡科との連携を密に行い、診療科を問わず最適な標準治療を提供できる体制を整えています。

2 診療実績

年間を通じて多数の患者さんを診療し、抗がん剤治療や放射線治療を含む集学的治療において豊富な実績があります。最新薬剤の導入により、再発・進行がん治療で顕著な成果を上げています。また、治験や臨床試験への参加件数も多く、地域医療の発展に貢献しています。

3 独自のアピールポイント

治験・臨床試験の拠点として国内有数の実績を誇り、全国規模の研究ネットワークや製薬会社と連携し、新薬や最新治療法を迅速に導入する体制を整えています。たとえば、免疫チェックポイント阻害薬やHER2陽性がん治療薬などの治験にも積極参加しています。承認された薬剤の多くは当センターの治験を経ており、臨床導入も迅速です。治療後のフォローアップや再発予防にも力を入れ、診療と研究の融合が強みです。

4 専門資格

日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医が6名（2024年4月現在）在籍しています。専門資格を持つ医師が、最新の知識と技術に基づき、安全で効果的な医療を提供しています。専門医の充実は、当科の大きな特徴です。

5 地域の先生方へ

地域の医療機関との連携を大切にし、患者さんが適切なタイミングで高度な専門治療を受けられるよう尽力しています。患者紹介時には迅速・丁寧に対応し、治療方針や経過を詳細に報告します。術後や治療後のフォローアップも可能で、地域での安心した療養をサポートしていきます。患者さんに最善の医療を提供するため、地域の先生方との協力を深めていきたいと考えています。

スタッフ紹介

原 浩樹

科長兼診療部長

日本内科学会総合内科専門医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
日本消化器病学会専門医

その他スタッフ

朝山 雅子 副部長	**吉井 貴子** 副部長	**粂川 陽祐** 副部長	**清水 怜** 副部長
高橋 直樹 医長	**松島 知広** 医長	**鈴木 裕子** 医長	**渡邊 一雄** 医長

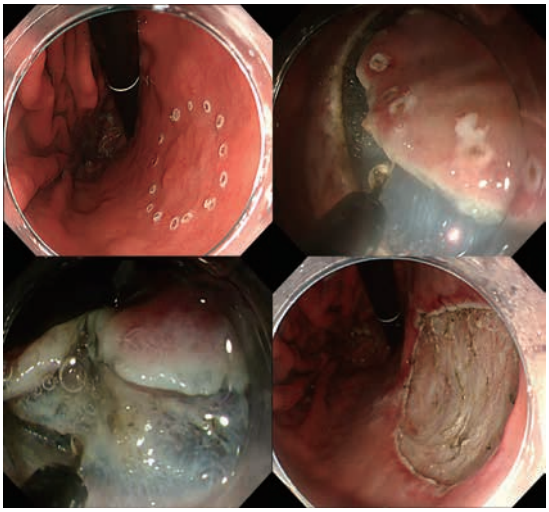
内視鏡科

対象疾患
早期食道がん、早期胃がん、早期十二指腸がん、早期大腸がん、咽頭表在がん

1 特性

内視鏡によるがんの診断・治療に特化したチーム

当科では、①がんの早期発見、適切な診断 ②低侵襲な内視鏡治療 ③がんの緩和的な内視鏡処置 を担当しています。特に内視鏡治療のESDでは、早期の食道がん・胃がん・大腸がんだけではなく、中下咽頭がんや十二指腸がんにも対応しており、県内でもトップクラスの内視鏡治療の実績を有しています。

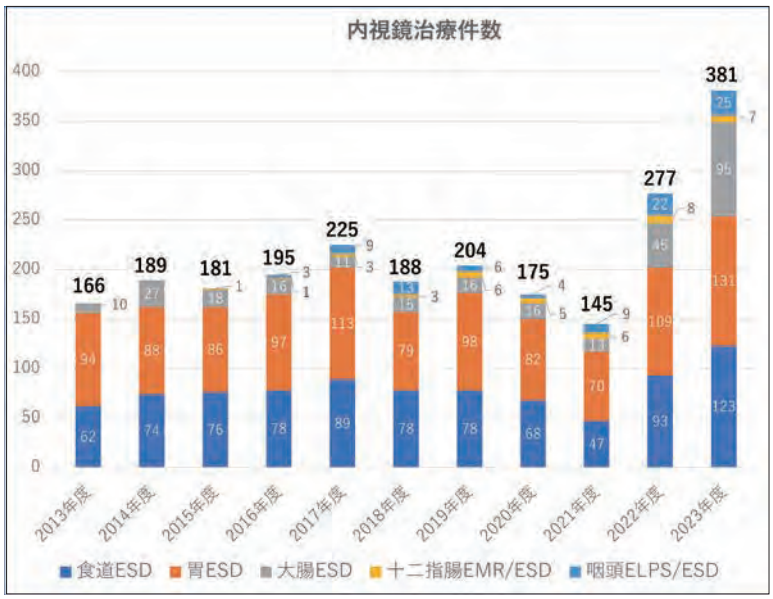


治療戦略が複雑な食道がんに強み

食道がんは、がんの広がりに応じて内視鏡治療、外科手術、放射線治療、化学療法と様々な治療の選択肢があります。また、咽頭や胃などに重複がんを有することも少なくありません。そのため複数の診療科が協力して適切な治療戦略を立てる必要があります。当科では、精密な内視鏡診断や光線力学療法（PDT）などの専門性の高い内視鏡技術で、チーム医療に貢献しています。

2 診療実績

2023年度内視鏡治療：381件
食道ESD 123件、胃ESD 131件、
十二指腸ESD/EMR 7件、
大腸ESD 95件、咽頭ELPS 25件



3 地域の先生方へ

内視鏡検査では、がんを疑うが病理診断が確定しないケースや、がんではないと思われるが違和感が残るケースなど経験されます。当科へのご紹介は、がんの診断がついていない段階でも全く問題はございません。慎重に、検査・フォローをいたします。お気軽にご紹介、ご相談ください。

スタッフ紹介

依田 雄介
科長兼診療部長

その他スタッフ

古江 康明
医長

笹部 真亜沙
医長

消化器外科

対象疾患
食道がん、胃がん、結腸直腸がん、肝がん、胆道がん、膵がん、その他消化器腫瘍

1 特性

臓器専門性と低侵襲手術

消化器外科では、総勢19名（2024年度：指導医10, 修練医9）が、消化器外科全体としてのまとまりの中で、臓器専門性を活かして、食道・胃・大腸・肝胆膵の4つの臓器科としてより専門性の高い医療を提供いたします。

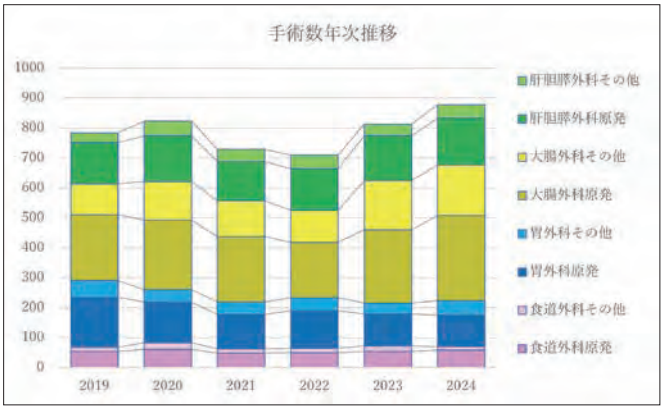
現在、4つの臓器科がすべて、内視鏡手術を積極的に導入しており、すべての臓器で技術認定医を有しています。ロボット支援科手術も全臓器で対応可能となっており、より低侵襲かつ精緻な手術を実現すべく精進しています。2024年は全手術の7割、腫瘍切除術の9割以上が内視鏡手術となっています。

集学的治療と高度進行がんへの取り組み

手術だけでなく、多くの場面で集学的治療が選択されるようになりました。高い専門性を有する腫瘍内科・内視鏡治療科・放射線治療科医師と緊密に連携をとりながら、頻繁にカンファレンスを開催して患者さん一人一人に適切な治療の選択を心がけています。

2 診療実績

2024年	腫瘍切除症例数 [体腔鏡手術（ロボット支援下）]	その他	合計
食道外科	59　[58(11)]	11[3]	70
胃外科	105　[97(54)]	48[35]	153
大腸外科	285 [262(111)]	170[94]	435
肝胆膵外科	155　[87(23)]	45[38]	200
	536 [504(199)]	**274[170]**	**878**



3 地域の先生方へ

近年消化器がんは、治療による生存率が向上しております。ひとつのがんを克服しても、重複がんが発見されることも珍しくありません。“顔の見える” 病診・病病連携を進め、患者さんが治療前後を通して一層過ごしやすい環境を整えていく所存です。地域の皆さんにとって、今まで以上に地域に根ざした紹介しやすい外科診療を目指してまいりますので、お気軽にご紹介いただけますよう、よろしくお願いいたします。

病状によっては、診療を急ぐこともあろうかと思います。その際は、予約枠にかかわらず対応いたしますので、ご連絡ください。

スタッフ紹介

【食道外科】

福田 俊　科長 (1,2,3,4)
岡 大嗣　医長
ほか修練医2名

【胃外科】

江原 一尚　科長 (1,2,3,4)
川上 英之　医長
西江 尚貴　医長 (3)
ほか修練医1名

【大腸外科】

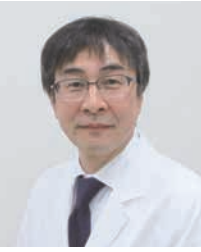
長嵜 寿矢　科長 (1,2,3)
大野 吏輝　医長 (1,2,3,4)
大井 悠　医長 (3,4)
夏目 壮一郎　医長 (3,4)
ほか修練医2名

【肝胆膵外科】

高橋 遍　科長 (1,2,3)
小倉 俊郎　医長 (2,3)
ほか修練医4名

1:外科学会指導医　2:消化器外科学会指導医　3:内視鏡外科技術認定医　4:ロボット支援手術プロクター
その他資格:食道外科専門医、肝胆膵高度技能専門医、大腸肛門病専門医 等

食道外科



福田 俊
消化器外科科長兼
診療部長
食道外科科長

食道外科は長年低侵襲治療である胸腔鏡手術を採用し、これまでの経験は1,000件を超え、食道がん手術のほぼ全例を低侵襲手術で行っています。ロボット支援手術も導入し、より繊細で精緻な低侵襲手術が可能となりました。

手術だけでなく、高い専門性を有する腫瘍内科・内視鏡治療科・放射線治療科医師と緊密に連携をとりながら、患者さん一人一人に適切な食道がん治療を提供します。また、食道がんに多い頭頸部腫瘍との重複症例に対応できるのも当院の強みと考えています。

食事ができない方など、急を要する場合はご連絡ください。予約外でも対応いたします。

胃外科

江原 一尚
胃外科科長

胃がんおよび粘膜下腫瘍の手術を担当しています。特にロボットや腹腔鏡といった、体にダメージの少ない低侵襲手術を15年前より導入しており、1,200人以上の患者さんに受けていただいた実績があります。低侵襲手術は痛みが少なく、合併症の発生率が低いことが特徴です。そのため術後の回復が早く、入院期間の短縮や早期社会復帰に役立っています。

また、内視鏡科や消化器内科と連携して胃カメラでの切除（ESD）、術前の抗がん剤治療、切除不能胃がんに対する抗がん剤と緩和治療の組み合わせなど、さまざまな選択肢を提案できることが強みです。その胃がん治療に対する総合力が評価され、2023年より日本胃がん学会認定施設Aに選出されております。胃がんと診断された場合は、ぜひ当院にご相談ください。

大腸外科

長嵜 寿矢
大腸外科科長

当科は初診枠を多く設けており、予約取得打診から1週間以内に受診可能です。腸閉塞など早急な対応を要する症例は、ご連絡いただければ当日でも受診/診察可能です。すでに貴院入院の方で治療方針にお困りの症例は、地域連携室を通じて転院調整させていただきます。

当科手術のほとんどは低侵襲手術であり、骨盤内臓全摘などの拡大手術も腹腔鏡下にて行っています。また下部直腸がんに対して術前化学放射線療法を積極的に行い、局所再発低減に努めています。このような集学的治療で腫瘍消失した場合に、手術を行わず経過観察をするなど、肛門温存/永久人工肛門回避を目指した治療選択を行っています。

肝胆膵外科

高橋 遍
肝胆膵外科科長

私たち肝胆膵グループは、肝胆膵内科との密な連携を図り、肝胆膵悪性腫瘍に対する手術治療を行っています。治療の特色としては、低侵襲手術から高度進行癌に対する高難度の開腹手術まで、幅広く行っている点です。

肝切除の約70%は腹腔鏡やロボットを用いた低侵襲手術にて行っていますが、再建を伴う肝切除や、複雑かつ多数の切除が必要となる症例については開腹手術にて根治性を追求しています。

精神腫瘍科

対象疾患

うつ病・適応障害、せん妄、治療経過中に生じた心理・社会的問題　など

1 特性

当センターで治療中の方を対象とし、臨床心理士と協力して患者さんのこころのケアを担当しています。「がん」が患者さんの身体や気持ちに及ぼす影響は大きなものです。病状を聞く、治療を受ける、病気が新たな局面を迎えるといった治療の経過の中で、気持ちが混乱し落ち込んだり、恐怖や不安を感じ、気持ちが滅入ったりすることがあります。主科と併診して治療とケアを行うことで、より良い状態で治療が受けられるようサポートをしています。

スタッフ紹介

石堂 考一

科長兼診療部長
精神保健指定医
日本心身医学会
心身医療「内科」専門医

2 診療実績

【院内コンサルテーション初診時診断件数】

	2023年度	2024年度（4月-9月）
気分障害、不安障害（うつ病、適応障害、パニック発作等）	64	8
認知症群、器質性精神障害群	46	19
せん妄	74	18
不眠症、睡眠障害	15	4
アルコール依存	8	3
その他の精神障害	22	12

3 地域の先生方へ

現在治療中の担当科からの院内紹介を対象としているため、外部からの紹介はお受けしておりませんが、患者さんとそのご家族が安心して療養できるよう努めています。精神科の病床がないため、精神症状の性状や程度により、専門の病院を紹介させていただく場合もございます。その際にはご協力くださいますようお願いいたします。

心療内科

対象疾患

心身症（ストレスで悪化する身体疾患）、気持ちのつらさ全般、せん妄　など

1 特性

院内でがん治療をされている患者さんで上記のような状態にある方のうち緩和ケアチームや精神腫瘍科の診療対象とならなかった方に対して、心身医学的アプローチによる評価に基づいて心理療法、薬物療法を併用した治療を行います。また、一部の患者さんを対象とした予防的な介入も行っています。その他、専任の精神症状担当として緩和ケアチームの活動にも従事しています。

スタッフ紹介

稲田 修士

科長兼診療部長
心療内科専門医
登録精神腫瘍医
緩和医療認定医

2 診療実績

【2023年の実績】

38名（内訳：心身症1名、適応障害13名、うつ病4名、不安症4名、身体症状症1名、せん妄5名、正常反応7名　緩和ケアチームの活動を除く）

3 地域の先生方へ

外部からの直接のご紹介は基本的にはお受けしておりませんが、緩和ケアチーム、精神腫瘍科と協働・役割分担をしながら、地域の先生方が安心してがん患者さんをご紹介できるようなサポート体制を作っていきたいと思います。また、がん治療がひと段落した患者さんを中心に逆紹介をさせていただくこともございます。その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

脳神経外科

対象疾患
脳腫瘍、膠芽腫、悪性リンパ腫、脳転移、髄膜種、下垂体腫瘍

1 特性

当科で主に扱う疾患は原発性脳腫瘍と転移性脳腫瘍です。原発性脳腫瘍、特に、悪性脳腫瘍の手術治療に際しては、ナビゲーション、術中神経モニター、蛍光ガイドなどを駆使し、脳機能保護と腫瘍摘出率向上の両立を目指しています。悪性脳腫瘍を代表する膠芽腫では化学療法に対する感受性（MGMTメチル化有無）を検査したうえ、化学放射線治療を行っています。良性腫瘍である髄膜種に対しては、術前腫瘍血管塞栓術を行い、安全に手術を施行しています。下垂体腫瘍に対して、内視鏡下下垂体腫瘍摘出術を導入しています。

転移性脳腫瘍においては、原発巣治療科と情報を共有し、患者さんのQOLの維持を目標に、手術療法、または放射線治療、定位放射線治療を、あるいは原発巣治療科から化学療法など、最適と思われる治療を提供しています。

よりよい脳腫瘍治療のため、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、MSWなどとともにカンファレンスを行い、患者さんを中心に考えたチーム医療を進めています。

がんが脳脊髄腔へ波及した髄膜がん腫症は治療困難な病態です。「髄膜がん腫症外来」において、髄膜がん腫症の早期診断と早期治療に努めています。

がん患者さんが脳卒中を併発することは稀ではないとされます。がんの手術前後（周術期）に脳卒中を併発すると、がん治療の遂行が困難となることがあります。「周術期脳疾患外来」において、脳MRA検査や頚部血管エコー検査による脳血管障害のリスク評価を行い、安全ながん治療に寄与しています。

2 診療実績

【2023年の実績】

脳腫瘍摘出術	51例（原発性脳腫瘍21例、転移性脳腫瘍30例）
シャント手術	5例
その他	15例

3 地域の先生方へ

脳腫瘍の頻度は多くなく“希少がん”です。そして、医学が進歩したとはいえ、特に膠芽腫は予後不良な疾患です。当院はがんゲノム拠点病院に指定されており、パネル検査の結果、新たな薬剤の治験に到達できた膠芽腫症例もあり、”希少がん“かつ”難治性“である悪性脳腫瘍に対して、治療選択肢を提案できる可能性があります。難治性の頭蓋底腫瘍なども、国内のエキスパートと協力し治療にあたることが可能です。

がん専門病院における脳神経外科として、自負を持って脳腫瘍治療にあたっております。患者さんに安全でかつ最良と思われる治療を提供していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

スタッフ紹介

早瀬 宣昭

科長兼診療部長

脳神経外科専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
主な経歴：群馬大学医学部付属病院　山梨県立中央病院

その他スタッフ

菅原 健一　医長

脳神経外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

大関 有希恵　医長

脳神経外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、神経内視鏡技術認定医

呼吸器内科

対象疾患
原発性肺がん、悪性胸膜中皮腫、胸腺腫瘍

1 特性

肺がんの薬物療法は、細胞傷害性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の組み合わせにより治療が行われています。分子標的薬は2002年にEGFR-TKIであるGefitinibが承認されて以降多くの薬剤が開発され使用できるようになっています。また、免疫チェックポイント阻害薬に関しても2015年に抗PD-1抗体であるNivolumabが承認されて以降抗PD-L1抗体や抗CTLA-4抗体が開発され使用できるようになっています。

これらの薬剤を適切に使用する事により肺がんの予後は改善を認めています。

一部の分子標的薬は進行肺がん以外に術後補助化学療法においても使用され、免疫チェックポイント阻害薬は、術前及び術後補助化学療法や化学放射線療法後の維持化学療法に使用されるため、肺がん診療における呼吸器内科医の役割が大きくなってきています。

2 診療実績

【2023年の実績】

呼吸器内科で新規に診断した胸部悪性悪性疾患

原発性肺がん：277例、悪性胸膜中皮腫：4例、胸腺腫瘍：4例

呼吸器内科で新規に導入した薬物療法

総数（新規初回治療実施例）：198例

- 分子標的薬：50例
- 免疫チェックポイント阻害薬：110例
- 化学放射線療法：48例
- 治験治療・臨床試験等：29例

3 地域の先生方へ

標準治療を適格に施行する以外により新しい治療を患者さんに届けるために治験治療の導入に力を入れています。初診受診にかかるまでの日数は、1週間以内を目指しており、検診要精査の患者さんもより多く診療する為に2次検診枠も設けています。

地域のかかりつけの先生と連携を取りながら治療をする事により良い医療を目指したいと考えています。

スタッフ紹介

水谷 英明

科長兼診療部長

その他スタッフ

渡辺 恭孝
副部長

木田 言
医長

三澤 一仁
医員

胸部外科

対象疾患
原発性肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫　など

1 特性

手術方法としては、ロボット支援手術を代表とする胸腔鏡手術を主に低侵襲性を重視した高齢者にやさしい手術方法を選択しています。肺がん手術ではロボット支援下に区域切除術（縮小手術）を積極的に導入しています。また、縦隔腫瘍手術でもロボット支援下手術を導入しています。悪性胸膜中皮腫については、胸膜肺全摘術や胸膜切除・剥皮術などの高難度手術も施行しています。

また、胸膜生検により確定診断することで労働災害や環境再生保全機構からの治療費負担やお見舞金の交付を受けることができるため、患者さんの精神的・経済的な支援も視野に入れ、治療を行っています。

2 診療実績

【2023年の実績】

①肺がん手術　169例

うち肺葉切除　96例

区域切除　45例

部分切除　28例

うち胸腔鏡に施行した症例　119例（70%）

ロボット支援下に施行した症例　39例（23%）

②転移性肺腫瘍手術　65例

うち全例を胸腔鏡あるいはロボット支援下に施行。

③縦隔腫瘍手術　11例

④悪性胸膜中皮腫手術　1例

当科では既に20例以上の手術を施行し、全国成績と比較してもかなり良好な成績です。

3 地域の先生方へ

当センターは2台のロボットを有し、積極的な高難度・低侵襲手術を施行しています。現在、胸腔鏡手術を執刀している外科医は5名（ロボット支援下手術は3名）です。いずれも、呼吸器外科専門医を有しており、経験豊富な外科医ばかりで、充実した診療が提供できることをお約束します。

また、地域の先生方には地域連携パスで術後患者さんを共に診療していただき、時にはがん治療の情報を共有していただくことで、双方向の情報交換を行い、患者さんに高度で愛情のこもった診療を提供できますように努力してまいります。

是非、当科に患者さんのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

平田 知己

科長兼診療部長

日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会専門医・指導医・評議員
日本内視鏡外科学会評議員

その他スタッフ

木下 裕康	中島 由貴	山﨑 庸弘	柳原 章寿
副部長	副部長	医長	医長

整形外科

対象疾患
骨悪性腫瘍：骨肉腫、ユーイング肉腫、がんの骨転移　など 軟部肉腫：脂肪肉腫、未分化多形肉腫、平滑筋肉腫、滑膜肉腫　など

1 特性

骨、筋肉、軟骨、脂肪などに発生するサルコーマやがんの骨転移手術のほか、良性骨軟部腫瘍も診療しています。

当センターでサルコーマ治療を受ける患者さんの約95%が患肢温存手術（手足の切断回避）を受けることができます。四肢の機能を守りながら、サルコーマを根治するための手術法の一つである、「術中切除縁評価法（ISP法）」が当科の特徴です。この方法を用いて、私たちは命だけでなく四肢機能を守り、患者さんの「生きて、動ける」を保つことに全力で取り組んでいます。

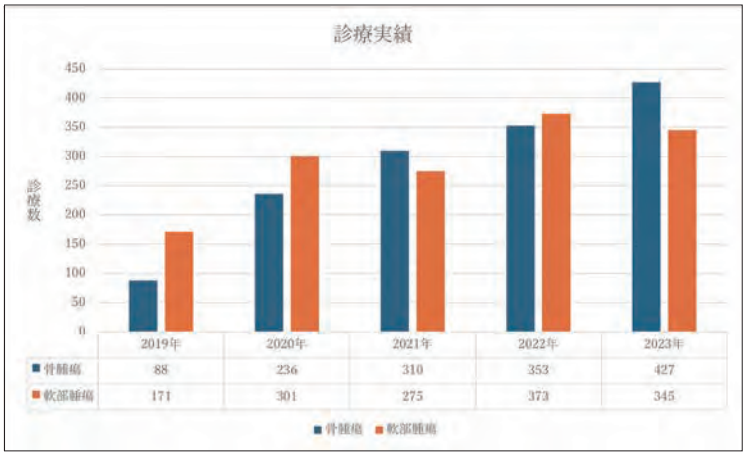
サルコーマの基本的な知識や当科の手術療法についての詳細は、右のQRコードから動画をご覧ください。

“がんの集い”希少がん・サルコーマの整形外科治療
五木田講演

2 診療実績

【治療件数】

	2021年	2022年	2023年
骨腫瘍	310	353	427
軟部腫瘍	275	373	345



3 地域の先生方へ

希少がんである骨軟部肉腫の手術治療をブランドに、全県的な骨軟部腫瘍の受け入れを行っています。また、がん拠点病院の役割である啓発・教育活動にも力を入れています。以下の肉腫診療の啓発資料をご覧ください。骨軟部腫瘍の診断や治療にお困りの時は、医療者向けメール相談も受け付けしていますので、ぜひご活用ください。

適切な悪性軟部腫瘍切除とは

思春期・若年成人に好発するがん種「骨肉腫」

医療者向けメール相談コミュニティ
骨軟部腫瘍の画像による診断など下記メールアドレスへお気軽にご相談ください。
g.sarcoma@saitama-pho.jp

スタッフ紹介

五木田 茶舞

科長兼診療部長
日本整形外科学会専門医・指導医
日本整形外科学会認定骨軟部腫瘍医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

その他スタッフ

澤村 千草
副部長

後藤 周平
医員

石原 光
医員

リハビリテーション科

対象疾患
がん・運動器・呼吸器・脳血管疾患に対する専門的リハビリテーション

1 特性

がん患者さんの移動能力の維持・回復を重視したがんロコモティブシンドローム（がんロコモ）診療を専門的に行っています。定期的なリハビリ回診およびがんロコモ相談を通じて、入院中の不動などによる運動機能低下予防に努めています。がん治療の重要な一環としてリハビリテーションを位置づけ、包括的な治療アプローチによるQOL（生活の質）の向上を目指しています。

2 診療体制

2024年度の診療科新設に伴い、セラピストの増員を進め、診療体制を拡充しています。
2025年度には以下の体制となる予定です。

- 理学療法士（PT）: 6名
- 作業療法士（OT）: 1名
- 常勤言語聴覚士（ST）: 1名
- 非常勤言語聴覚士: 1名

これにより、個々の患者さんのニーズに応じた質の高いリハビリテーションを提供することが可能です。

3 地域の先生方へ

高度ながん診療と併せて、多職種で連携したリハビリテーションを統合的に提供しています。がんロコモの早期発見・介入を積極的に行い、治療後のQOL向上に注力しています。地域の医療機関の先生方との緊密な連携のもと、がん患者さんに最適な医療を提供してまいります。がん診療が必要な患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介くださいますようお願い申し上げます。

スタッフ紹介

小柳 広高

科長兼診療部長
日本整形外科学会専門医・指導医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

【スタッフの認定資格等】

登録理学療法士	3名
がんのリハビリテーション研修修了者	6名
緩和ケア研修会修了者	4名
3学会合同呼吸療法認定士	2名
リンパ浮腫セラピスト指定講習会修了者	1名
医療クオリティマネジャー	1名
サルコペニア・フレイル指導士	1名

形成外科

対象疾患
頭頸部腫瘍・乳房・悪性軟部腫瘍切除後の再建手術、皮膚悪性腫瘍の手術

1 特性

腫瘍外科医とともに患者さんの術後のQOLを考えて、その患者さんに応じた再建手術を行っています。

乳房再建手術においては穿通枝皮弁（DIEP皮弁やPAP皮弁等）といった身体に侵襲が少ない手術方法や、頭頸部再建手術においては、通常の遊離空腸移植や遊離腓骨皮弁、遊離大腿皮弁での再建に加え、肋軟骨を用いた甲状腺がんの気管浸潤切除後の気管の硬性再建等も行っています。整形外科領域の悪性軟部腫瘍後の再建手術に関しては、なるべく四肢を温存する方法での再建手術を行っています。

2 診療実績

【形成外科（手術統計2023年度）】

	手術件数（うちマイクロサージャリー）
頭頸部再建	93（69）
乳房再建	98（19）
整形外科再建	36（16）
口腔外科再建	26（18）
消化器外科再建	16（5）
皮膚科再建	103（0）
リンパ浮腫手術	2（2）
形成外科小手術	13（0）
その他	9（0）
計	**394（127）**

3 独自のアピールポイント

腫瘍切除を行ってがん制御はできたものの、身体の組織欠損による機能障害や醜形を思い悩んでいる患者さんは、いまだ多いと思います。そういった腫瘍切除後の患者さんのQOL向上を考慮した再建手術にも積極的に取り組みます。

4 地域の先生方へ

当センターには、頭頸部再建、乳房再建、整形外科領域の再建手術をそれぞれ専門的に行っている再建外科医（形成外科医）が常勤で勤務しており、各領域の再建手術に関して常に研鑽を積んでいます。消化器外科の医師と連携し、肝動脈再建や腹壁再建等の治療を行っており、その他の診療科でも再建手術を行うことがあります。また、すでに乳房切除が行われた乳房再建手術（二次再建）も行っています。希望する患者さんについては、積極的に診察いたしますので、ご紹介ください。

スタッフ紹介

濱畑 淳盛

科長兼診療部長

日本形成外科学会形成外科指導医
日本形成外科学会再建マイクロサージャリー分野指導医
日本形成外科学会再建皮膚腫瘍外科分野指導医
乳房再建エキスパンダー責任医　等

その他スタッフ

此枝 央人
医長

久保 和之
医長（乳腺外科兼任）

二見 紘史
医長

田崎 愛理
医長

婦人科

対象疾患
子宮体がん、子宮頸がん、CIN、卵巣/卵管/腹膜がん(疑い例含む)、その他

1 特性

① 総合的な診療体制

「手術」「放射線」「薬物療法」に加え、緩和治療も早期から提供します。多職種が連携し、カンファレンスを通じて病態に応じた最適な治療を実施します。必要時には専門施設とも連携します。

② 実績と最新エビデンスに基づく治療

豊富な治療経験を生かし、高難度手術から低侵襲手術、適応に応じた分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬まで幅広く対応します。さらに、がんロコモ予防やリンパ浮腫の理学療法指導も実施します。

③ 遺伝性腫瘍およびがんゲノム医療

遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）には予防的手術や連携診療を実施します。標準治療後の患者さんには遺伝子パネル検査を活用し、個別化治療を提案します。

④ 新しい治療法への取り組み

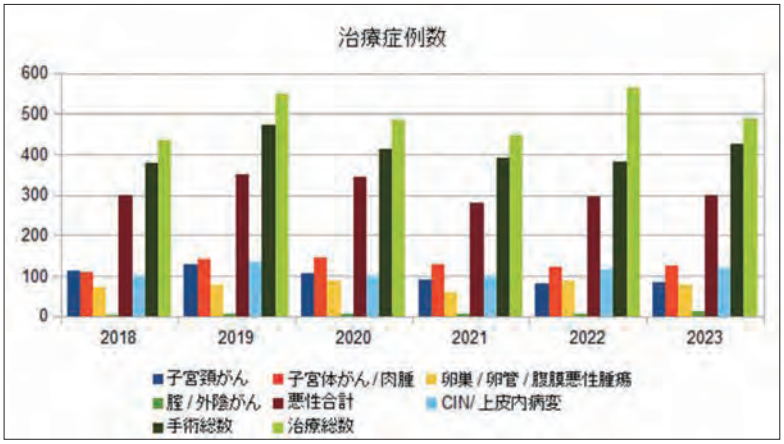
臨床試験や治験に積極的に参加し、新しい放射線治療や手術法の研究開発にも取り組んでいます。

2 診療実績

新規治療件数は年間400例を超えています。

【2023年】

子宮体がん	125例
子宮頸がん	87例
CIN	133例
卵巣/卵管/腹膜がん	79例



3 地域の先生方へ

地域の医療機関と連携し、質の高い医療を提供しています。検診で指摘される細胞診異常には見落とせない疾患が隠れる場合もあり、早期の精密検査と診断が重要です。病理・画像診断の専門医と経験豊富な婦人科医が連携し、患者さんの年齢や病態に応じた最適な治療法を提案します。細胞診異常の精密検査は「婦人科二次検診外来」をご利用ください。早急な対応が必要な際は地域連携室にご相談ください。迅速で質の高い医療を提供し、患者さんの健康を支えます。

スタッフ紹介

堀江 弘二

科長兼診療部長

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
Intuitive社によるロボット手術 certification取得者

その他スタッフ

三浦 紫保 副部長	**鈴木 由梨奈** 医長	**三角 史** 医長	**小池 亮** 医長
植竹 七海 医員	**堀 祥子** 医員	**牧野 文乃** 医員	**松浦 祐宣** 医員

頭頸部外科

対象疾患
鼻副鼻腔がん、口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、
頸部食道がん、甲状腺がん、唾液腺がん

1 特性

■手術治療

当科は手術治療を主に行う外科系診療科であり、切除可能なものは積極的に手術を行うようにしています。近年進歩の目覚ましい咽頭表在がんに対しては内視鏡科との合同手術（内視鏡補助下咽頭腫瘍切除）を積極的に行っています。進行がんに対しては形成外科との再建手術を行い、最大限の機能温存を目指しています。

■放射線治療

頭頸部のがんに対して手術と双璧となるのが放射線治療であり、放射線治療科と共同で治療を行っています。放射線治療中には治療を受けている部位の炎症による痛み、食事がとれないなどの合併症が必ずといっていいほど発生します。そのような症状にも鎮痛剤の投与などきめ細やかに対応いたします。

■化学療法

近年、薬剤の進歩は目覚ましく、いわゆる抗がん剤だけではなく分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などが頭頸部がんに対して新たに保険適応となっています。当科で腫瘍内科医と連携して副作用などに対応しつつ積極的に使用しています。

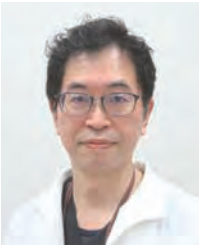
2 診療実績

【2023年の実績】
口腔がん手術（再建を伴わないもの）22例
唾液腺腫瘍手術（良性・悪性）24例
甲状腺腫瘍手術（良性・悪性）84例
遊離皮弁再建手術57例
内視鏡補助下咽頭腫瘍切除術（ELPS）29例
その他166例
計382例

3 地域の先生方へ

埼玉県下には頭頸部がん診療を扱っている医療機関が少ないという現実があります。当科では今までの治療実績と長年の経験を生かして技術的にも高いレベルの頭頸部がん治療を提供することを目指しています。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介



白倉 聡
科長兼診療部長
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

別府 武
副病院長
頭頸部外科専門医・認定医
耳鼻咽喉科専門医・認定医
気管食道科専門医

その他スタッフ

小出 暢章
医員

梶野 晃雅
医員

柳橋 賢
医員

水野 雄介
医員

菅原 康平
医員

野島 誠
医員

皮膚科

対象疾患
悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、ボーエン病、日光角化症、乳房外パジェット病などの皮膚がん

1 特性

本邦ガイドラインや専門的に皮膚がん治療を行ってきた経験を踏まえ、疾患特性に応じた治療を行っています。

2 診療実績

2023年度実績として入院患者数延べ73名、手術件数は悪性腫瘍切除術103件、リンパ節摘出術19件、腋窩リンパ節郭清術1件、鼠径リンパ節郭清術2件、センチネルリンパ節生検術3件、良性腫瘍切除術44件、手術以外に抗がん剤治療、放射線治療を行っています。

3 地域の先生方へ

皮膚腫瘍は診断に迷うものが多数あります。そのような時はお気軽に当科にご紹介いただけますようよろしくお願いいたします。

スタッフ紹介

石川 雅士
科長兼診療部長
日本皮膚科学会専門医
日本皮膚悪性腫瘍学会評議員
日本皮膚外科学会評議員

その他スタッフ

大芦 孝平
副部長
日本形成外科学会形成外科専門医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
日本皮膚悪性腫瘍学会評議員

麻酔科

1 特性

麻酔管理を通して手術診療に携わっています。全身麻酔・区域麻酔など手術の特性に応じて最適な麻酔を提供しています。

また、集中治療が必要な患者さんに対して主科と協力して診療を提供しています。

2 診療実績

2023年度麻酔科管理実績は3,356件でした。

3 地域の先生方へ

手術部門が中心の診療ですので地域の先生からのご紹介・交流は少ないのですが、かかりつけの先生方の診療情報は非常に重要で最大限活用しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

佐藤 浩三
科長兼診療部長
機構専門医
学会指導医
学会認定医
ICD

その他スタッフ

佐藤 ゆみ子
副部長
機構専門医
学会指導医
学会認定医
ICD

茂木 康一
副部長
機構専門医
学会指導医
学会認定医

澤田 圭介
医長
機構専門医
学会指導医
学会認定医

本吉谷 真理子
医長
機構専門医
学会認定医

茂木 彩加
医長
機構専門医
学会認定医

四方田 了平
医長
学会認定医

泌尿器科

対象疾患
腎臓がん、腎盂がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん　など

1 特性

①がん治療の向上を目指す集学的個別化治療

患者さんに合わせた治療を行っています。病状によりますが、投薬治療を手術や放射線治療と組み合わせることにより、根治や改善の可能性を高めることにも取り組んでいます。

②ロボット支援手術と腹腔鏡下手術

低侵襲手術に取り組んでいます。ロボット支援手術ではダビンチサージカルシステムを使用し、質の高い治療の提供に努めています。

③MRI-超音波フュージョン前立腺生検

MRIとリアルタイム超音波を連結した画像ナビゲーション生検により、正確で最適な前立腺がん診療につなげています。最新型システムUroNav ver.4.0を使用しています。

④前立腺部分治療（フォーカル・セラピィ）

前立腺がんの状態によっては、前立腺全体ではなく病気の領域に対して小線源療法によるFocal Therapyを行い、がん治療と機能温存の両立を目指しています。

2 診療実績

ロボット支援手術や腹腔鏡下手術を中心に手術を行っています（別表は当科手術の一部です）。小切開手術、開腹手術も数多く行っています。

		2019	2020	2021	2022	2023
ロボット支援手術	ロボット支援前立腺全摘術	97	87	95	84	85
	ロボット支援膀胱全摘術	17	16	23	16	25
	ロボット支援腎部分切除術	14	19	24	26	29
腹腔鏡下手術	腹腔鏡下根治的腎摘術	3	14	6	11	10
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	7	13	21	11	21
	腹腔鏡下副腎摘除術	2	0	1	1	3

3 地域の先生方へ

高齢化が進み、泌尿器がんは今後も増加が予想されています。当センターは近隣医療機関の皆様との連携を深め、がん診療の向上を目指しています。泌尿器がん診療のほか、がん疑いの診察も行っていますので、お気軽にご紹介ください。

スタッフ紹介

松岡 陽

科長兼診療部長

専門分野：泌尿器がん
資格：泌尿器科専門医・指導医、ロボット支援手術プロクター、東京科学大学 臨床教授

影山 幸雄

病院長

専門分野：泌尿器がん
資格：泌尿器科専門医・指導医、がん治療認定医、ロボット支援手術プロクター

その他スタッフ

中村 祐基　医長
専門分野：泌尿器がん
資格：泌尿器科専門医・指導医、ロボット支援手術プロクター、腹腔鏡技術認定医、腹腔鏡下小切開手術 施設基準医

佐野 裕大　医員
専門分野：泌尿器科一般
資格：泌尿器科専門医、ロボット支援手術プロクター

後藤 慶大　医員

松岡 将太郎　医員

歯科口腔外科

対象疾患
口腔がん(舌がん、歯肉がん、頬粘膜がん、口底がん 等)、前がん病変、難治性口内炎、口腔外科一般疾患(薬剤性顎骨壊死、顎骨嚢胞、埋伏智歯 等)

1 特性

口腔がんの診断、治療、再建（形成外科との合同手術）、顎義歯作製（保険適応の歯科用インプラント併用を含む）まで、一貫して診療を行っています。また、院内の周術期口腔機能管理や医科歯科連携による口腔機能管理も進めています。

2 診療実績

(2023年度の主な手術)

・舌がん：舌部分切除　56件、舌半側切除　8件
・上顎・下顎歯肉がん：顎骨切除　26件　ほか
・頸部リンパ節転移：頸部郭清　66件
・再建(有茎・遊離皮弁)：23件

3 認定資格

①施設

日本口腔外科学会認定施設、日本口腔腫瘍学会認定施設、日本口腔科学会認定施設、等

②個人認定資格

日本口腔外科学会専門医4名、指導医3名、認定医3名
日本口腔腫瘍学会　口腔がん専門医2名
日本がん治療認定医機構がん治療認定医3名

4 地域の先生方へ

全国の口腔がん治療を行う有名大学に劣らない年間患者治療数を有しています。さらに口腔がんの早期発見、早期治療に努めており、浦和歯科医師会との口腔がん検診事業を進めています。

また、舌がん症例は、全国のうち先駆的に術中超音波検査を併用した舌部分切除を開始し、無駄な切除マージンを設定することなく機能温存を図りながら、安全にがんの切除を行っています。

口腔がんに限らず、口腔の難治性疾患を有する患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介ください。なお、急ぎの場合、火・木・金曜日の日中、直接お電話ください。早々に拝見できるように努めます。

スタッフ紹介

常勤3名、常勤レジデント3名、非常勤3名(うち2名は大学病院顎補綴学教室からサポートあり)の計9名。

八木原 一博

副病院長
科長兼診療部長
日本口腔外科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医

その他スタッフ

炭野 淳
医長

桂野 美貴
医員

放射線治療科

対象疾患
・脳腫瘍（膠芽腫）、転移性脳腫瘍（★2024年より、多発転移に対する定位照射も開始しました） ・頭頸部がん（上中下咽頭がん、舌がん、歯肉がん、喉頭がん、上顎洞がんなど） ・甲状腺がん（I-131内用療法：外来、入院ともに行っています） ・食道がん ・肺がん、転移性肺腫瘍 ・乳がん（術後照射） ・悪性リンパ腫 ・肝臓がん、転移性肝腫瘍 ・膀胱がん、前立腺がん ・子宮頸がん、体がん ・直腸がん（術前治療） ・肛門管扁平上皮がん ・皮膚がん ・オリゴ転移 ・緩和治療一般 ・ラジオアイソトープ治療

1 特性

4台の放射線治療装置（リニアック）でエックス線治療においてはほぼ全ての治療方法に対応し、IMRT（強度変調放射線治療）やSRT（定位照射）を積極的に行っています。多くのがん種の様々なステージに関わるため、常にアップデートが欠かせません。院内外の他領域の専門の先生方との交流、臨床試験や治験への参加を通して日々精進しております。核医学診療はシンチやFDG-PETなどの画像検査や、甲状腺がんや前立腺がん骨転移、神経内分泌腫瘍に対するアイソトープ治療を行っています。

2 診療実績

【2023年の実績】

放射線治療患者　1,449人

・外部照射　1,421人

SRT　168人（うち脳定位照射：84人、体幹部定位照射：84人）

IMRT　480人（うち頭頸部がん：144人、前立腺がん：132人）

・子宮腔内照射　62人（うちハイブリッド照射：23人）

・前立腺がん小線源永久挿入　9人

・アイソトープ治療（甲状腺がんI-131内用療法：47人、前立腺がん骨転移Ra-223：4人）

3 地域の先生方へ

エックス線による放射線治療については、ガイドラインに掲載されている標準的治療を行っています。緩和治療における放射線治療は様々ですが、痛みだけでなく、出血や腫瘍の自壊、精神的な苦痛のもととなる腫瘍の増大などに対しても治療が可能です。緩和治療は骨転移による痛みは1回の照射、他の治療でも1週間程度で終了できるものがほとんどです。

放射線治療は原発の担当科あるいは緩和ケア科からの院内紹介を基本とさせていただいています。お手数ですが該当科へのご相談をよろしくお願いします。

スタッフ紹介

工藤 滋弘

科長兼診療部長

放射線治療専門医

その他スタッフ

島野 靖正
副部長
放射線診断専門医
核医学専門医

牛島 弘毅
医長
放射線治療専門医

松井 利晃
医員

宇佐美 礼央
医員

塩島 寛太
医員

放射線診断科

1 特性

画像診断はCT、MRIを中心として、単純X線や消化管造影も読影しています。また、IVRはアンギオ室にCT装置付き血管造影装置、超音波装置を設置し肝動脈化学塞栓術の他、止血目的の塞栓術、各種ドレナージ、CTまたは超音波下生検およびCVポート（IVHリザーバー）植込み術などを行っています。また10年以上前から大腸がんの術前検査や内視鏡挿入困難例に対してCTコロノグラフィー（大腸CT検査）を行っています。

2 診療実績

【2023年の実績】

CT読影数25,941件、MRI読影数7,904件、消化管造影読影数476件、動脈塞栓術（TACE含む）24件、CVポート挿入数515件、CTまたは超音波下生検49件。

3 地域の先生方へ

院内で行われている画像検査の読影および院内で紹介された症例のIVRを中心に診療しているため、他の医療機関から直接ご紹介いただく機会は少ないですが、ご紹介いただいた医療機関の画像検査でレポートがない場合の読影を行い臨床に役立てています。また、CTコロノグラフィーは院内からの依頼だけでなく全大腸内視鏡検査が困難な近隣医療機関の患者さんをご紹介いただく際の外来窓口となっています。

スタッフ紹介

野津 聡

科長兼診療部長

資格:日本医学放射線学会専門医・指導医、日本大腸肛門病学会専門医・指導医、日本消化器がん検診学会総合認定医

その他スタッフ

和田 達矢　医長

資格:日本医学放射線学会診断専門医・指導医、日本IVR学会専門医、日本核医学会専門医

鈴木 聡子　医長

資格:日本医学放射線学会診断専門医・指導医、PET核医学認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

中田 裕香理　医員

病理診断科

1 特性

近年のがん診断は高度の専門性を要します。当科は常勤医師8名、非常勤医師10名という県内有数の体制で、専門分野に応じて緻密な病理診断を行います。疾患に応じて免疫染色法、FISH（Fluorescence in situ Hybridization）法、DISH（Dual Color in situ Hybridization）法、PCR法、RT-PCR法、サンガーシークエンス法、次世代シークエンス法といった技術も用いてより正確な診断を心がけます。

2 診療実績

【2023年の実績】

組織診(生検および手術検体)　10,955件、細胞診断　9,829件、術中迅速診断 1,435件、剖検 18体

3 地域の先生方へ

当科では各臓器の専門家が正確な診断を提供いたします。安心してご紹介をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

スタッフ紹介

神田 浩明

科長兼診療部長

日本病理学会専門医・指導医
日本病理学会分子病理専門医
日本臨床細胞学会専門医・指導医

その他スタッフ

元井 紀子　副部長

西村 ゆう　副部長

飯塚 利彦　副部長

石川 文隆　副部長

坂下 麻衣　医長

前川 尚志　医員

遺伝科

1 特性

“ゲノム情報に基づく適切な医療の提供”

ゲノム情報に基づくがんの層別化医療は、治療（Cure）だけではなく予防（Care）も対象に含まれます。当科では各診療科や地域医療機関のがん診療を、遺伝診療・ゲノム医療側から担当します。

ゲノム解析：当科内に解析チームを有し、第三者認定（ISO15189）を取得した遺伝子検査室で、遺伝性腫瘍症候群多遺伝子パネル検査や生殖細胞系列の遺伝子解析を行っています。

がんゲノム検査：がんゲノム医療拠点病院として、がんゲノム検査の実務を担っています。腫瘍ゲノムプロファイリング解析の結果検出された二次的所見（疑い含む）の遺伝診療にも対応しています。

遺伝カウンセリング：様々な遺伝性腫瘍症候群に対応しています。がんの罹患の有無を問わず、血縁者診断や非腫瘍の表現型をとる一部の遺伝性疾患にも対応しています。遺伝性のがんを心配しているご相談にも応じています。

（例：遺伝性乳がん卵巣がん、リンチ症候群、家族性大腸腺腫症、リ・フラウメニ症候群、PTEN過誤腫症候群、多発性内分泌腫瘍症、神経線維腫症、Peutz-Jeghers症候群、遺伝性びまん性胃がん、Von Hippel-Lindau病、遺伝性平滑筋腫症腎細胞がん症候群　等々）

2 診療実績

臨床遺伝専門医（2名）、認定遺伝カウンセラー（4名）、研究員、臨床検査技師、事務員で運営しています。

2023年度　・ゲノム解析：MSI検査（143件）、遺伝性腫瘍症候群多遺伝子パネル検査（215件）
　　・遺伝カウンセリング：初診（190人）、再診（358人）

2022年度　・ゲノム解析：MSI検査（115件）、遺伝性腫瘍症候群多遺伝子パネル検査（195件）
　　・遺伝カウンセリング：初診（174人）、再診（280人）

2021年度　・ゲノム解析：MSI検査（143件）、遺伝性腫瘍症候群多遺伝子パネル検査（174件）
　　・遺伝カウンセリング：初診（150人）、再診（251人）

3 地域の先生方へ

“遺伝子”、“ゲノム”でお困りのことがありましたら、まずは当科にご相談ください。遺伝診療は、保険診療と自費診療の遺伝学的検査があります。また、研究などで低価に提供できるものもあります。クライエントまたは家系ごとに個別にアセスメントを行い、ベストな方法を考えていきます。

臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医など遺伝診療のスペシャリスト資格取得を目指したい方のご相談も受け付けています。

スタッフ紹介

吉田 玲子

科長兼診療部長
臨床遺伝専門医・指導医
遺伝性腫瘍専門医・指導医
乳腺専門医

その他スタッフ

山本 剛
副部長

総合内科

対象疾患
糖尿病、がん診療に関わる日和見感染症、術後感染症、がん治療関連心機能障害、静脈血栓塞栓症など

1 特性

がん患者さんの多くが糖尿病、高血圧、慢性心不全など様々な併存疾患を有しているだけでなく、がんやがん治療によって糖尿病、感染症、薬剤性心筋症などを新たに生じることがあります。当科はがん患者さんが抱えるこうした疾患を対象として2020年に開設され、がん専門医や各部門と連携しながら診療にあたっています。なお、急性心筋梗塞や重篤な肺塞栓症など高度医療を要する疾患については速やかに専門施設へご紹介しています。

2 地域の先生方へ

がん診療をサポートすることが我々の使命です。地域の先生方から直接当科へご紹介いただくことはありませんが、がん診療科と連携してがん患者さんが抱える併存疾患について並診しています。複数の併存疾患を有する方であっても、がん診療が必要な方は併存疾患の情報とともにぜひ当センターまでご紹介ください。なお、がん診療後の生活習慣病などのフォローについては改めてご相談させていただきます。

スタッフ紹介

岡 亨
副病院長
科長兼診療部長
日本腫瘍循環器学会 理事・評議員
ヨーロッパ心臓病学会 特別正会員

その他スタッフ

明貝 路子
医長
日本感染症学会 感染症専門医・指導医
日本小児科学会 小児科専門医
ICD制度協議会 Infection Control Doctor

松居 一悠
医長
日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本循環器学会 循環器専門医

臨床検査科

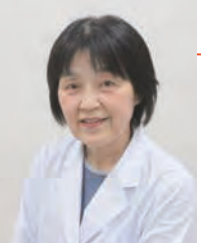
1 特性

- 臨床検査科は検査技術部と協力し、臨床検査のマネージメント、検体・生理検査、感染症検査などの正確なデータ取得のための検査の精度管理、輸血・細胞療法を実施しています。
- 病理診断科、遺伝科、臨床腫瘍研究所と協力し、試料のバイオバンク提供、治験、臨床研究を推進しています。

2 診療実績

- 2018年から国際規格ISO15189を取得し、精度の高い検査を提供しています。コロナ禍における感染管理室の支援や腫瘍循環器疾患に対する取り組みなど、チーム医療を実践しています。
- 造血器腫瘍遺伝子パネル検査の保険適用への動きと合わせて、開院以来継続してきた分子診断の実装化を目指します。

スタッフ紹介



川村 眞智子
科長兼診療部長
血液内科兼任
臨床検査専門医・指導医、小児科専門医・指導医、血液専門医・指導医、造血細胞移植認定医、臨床遺伝専門医

その他スタッフ

明貝 路子
総合内科医長兼任
日本感染症学会 感染症専門医・指導医
日本小児科学会 小児科専門医
ICD制度協議会 Infection Control Doctor

3 地域の先生方へ

検査にあたって患者さんに負担がないよう日々検討を重ねております。お気づきの点があればご意見をお聞かせください。また、小児がん経験者・造血細胞移植後の長期健診計画についても遠慮なくご相談ください。

がんゲノム医療センター

1 体制

がんゲノム医療診療拠点病院として全国に32か所で指定されている施設の一つです。埼玉県および近郊のがん患者さんへ、がんゲノム医療中核拠点病院（東京大学医学部附属病院）と連携しながら、がん遺伝子パネル検査による医療を提供しています。

院内に加え、がんゲノム医療連携病院である埼玉県立小児医療センター、佐久医療センター、上尾中央総合病院をはじめ、がん遺伝子パネル検査にご紹介いただいた患者さんのエキスパートパネルも実施しています。当施設のエキスパートパネルは、主治医、がん薬物療法専門医、遺伝医学の専門医、遺伝カウンセラー、病理専門医、分子遺伝学、がんゲノム医療専門家から構成され、事務局、がんゲノム医療コーディネーターも備えています。

2 特色

当センターは国内で実施されているすべてのパネル検査に対応し、年間200例を超える症例を検討しています。毎週エキスパートパネルを開催して迅速に患者さんに最適な治療選択に必要な検査報告を提供しています。

責任者紹介

影山 幸雄

病院長
センター長

分子病理・デジタル病理診断センター

1 概要

がんの診療方針は病理診断に基づき決定されています。近年のがん診断には病理組織学的診断に加えて、がんの遺伝子変化に基づく「分子病理診断」の重要性が増しています。また、「デジタル病理診断」は、病理医不足に対する遠隔病理診断への対策や、がんゲノム医療における病理組織検体評価や病理バイオマーカー検査の評価の適正化、より高精度な病理診断への活用が期待されています。

本センターは、分子病理診断およびデジタル病理診断の地域医療中核施設として2025年度に新しく設立されました。がんゲノム医療の中で特に分子病理診断、バイオマーカー診断に関する病理診断相談や、デジタル病理技術を活用したセカンドオピニオンを通して地域医療のがん診療に貢献してまいります。

責任者紹介

元井 紀子

センター長

医学博士
日本病理学会専門医・指導医
日本病理学会分子病理専門医
日本臨床細胞学会専門医・指導医
日本病理学会 病理診断 コンサルタント
国立がん研究センター 病理診断 コンサルタント

2 特色

がん診療専門施設として、病理組織検体を用いるFISH, RT-PCR, NGSによる分子病理診断・検査に対応しています。また、デジタル病理診断に必要な浜松ホトニクス社のNanoZoomer®S360MDスライドスキャナシステムおよび研究用スライドスキャナ、インディカラボ・HALO等を活用したデジタル画像解析を行っています。一般病院で実施困難な分子病理診断や病理診断に悩む症例の相談窓口としてご活用ください。また、当センターの解析技術を活用した臨床研究の相談も受け付けています。

治験管理室

1 概要

治験管理室では、治験や臨床試験が円滑に行えるよう、試験実施上の諸手続や治験審査委員会/臨床研究審査委員会（IRB）に関する事務等の支援をしています。

また、臨床試験(治験)コーディネーター（CRC）が、治験（臨床試験）業務全般のサポートを担い、医師と患者さん、さらに製薬企業との連絡・調整役を務めています。

責任者紹介

岡 亨

副病院長
治験管理室長

2 特色

埼玉県立がんセンターは、県内でも有数の治験実施施設です。治験以外にも多くの臨床試験を実施しています。当センターHPのトップページ、または治験管理室のページのリンク「実施中の治験」「実施中の自主臨床試験」から実施中の治験や臨床試験をご確認いただけます。治験参加にご関心のある患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介いただけますようお願い申し上げます。

低侵襲手術センター

1 概要・体制

低侵襲手術センターはロボット支援手術の導入に合わせて設立され、診療科横断的な組織運営を行っています。主にロボット支援手術の安全性を担保することを目的として新規術式の適格審査と登録、手術を担当する医師の資格審査と登録を中心に活動しています。また従来の鏡視下手術も含め、低侵襲手術に関連する有害事象の検討を随時行い、必要に応じて関連診療科、診療部門に提言を行っています。また手術室運営委員会と歩調を合わせて手術枠の調整にも協力しています。

センター長・副センター長を中心に、臨床工学部、看護部、手術室、HCU、関連診療科の代表の協力のもとに運営しています。手術支援ロボットは現在2台が稼働しており、2023年度は375件のロボット支援手術が行われました。保険適応の拡大に伴い今後も手術件数の増加が見込まれます。より多くの患者さんが低侵襲手術の恩恵を受けられるように地域医療機関の皆様への情報提供と連携の促進を続けていきたいと考えております。

責任者紹介

影山 幸雄

病院長
センター長

江原 一尚

副センター長

希少がん・サルコーマセンター

1 概要

肉腫（サルコーマ）は骨、筋肉、脂肪組織などに由来し、体のどこにでも発生する希少疾患です。当センターでは2018年4月に希少がん・サルコーマセンターを開設しました。診療経験豊富なスタッフを揃え、多職種で連携しながら正確な診断と最適な集学的治療を提供しています。

2 診療実績

- 婦人科領域肉腫：1995年～2022年の診療実績は29例（子宮平滑筋肉腫25例など）
- 腹部・後腹膜肉腫：2021年1月～2023年12月の診療実績は46例（脱分化脂肪肉腫15例、平滑筋肉腫6例、高分化型脂肪肉腫6例など）

3 地域の先生方へ

当センターでは運動器・皮膚・腹部・後腹膜・骨盤発生肉腫を臓器横断的にチームで診療すると共に、「SCC network」を立ち上げました。また医療者からのメール相談も受け付けております。肉腫診療にお困りの際は是非ご活用ください。

責任者紹介

五木田 茶舞

副センター長
サルコーマカンファレンスリーダー
整形外科科長兼診療部長

SCC Network
Sarcoma Consultation Community

医療者向けメール相談コミュニティ

骨軟部腫瘍の画像による診断など
下記メールアドレスへお気軽にご相談ください。

g.sarcoma@saitama-pho.jp

埼玉県立がんセンター
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室780

通院治療センター

1 概要

患者さんの生活の質（QOL）向上の観点から外来でのがん薬物療法が増加しています。その外来化学療法で中心的な役割を担うのが通院治療センターです。リクライニングチェア36床、電動ベッド24床（計60床）の治療ベッドがあり、年間約2万7千人、1日100～140人以上の患者さんの治療を行っています。医師、看護師、薬剤師が緊密に連携を図りながら、安全で効果的な薬物療法を実施しています。

2 特色

通院治療センターで使用される治療法（レジメン）は、複数診療科の専門医により、有効性と安全性を評価、検討した後に登録された標準的治療法です。

薬剤師外来では、がん指導薬剤師と外来がん治療専門薬剤師が、薬剤の情報提供や皮膚症状への対処法等をアドバイスしています。また、がん化学療法認定看護師が看護外来で面談を行い、抗がん剤による身体症状や気持ちのつらさ、治療に伴う心配事に対応しています。

患者サポートセンター

1 活動内容

がん患者さんは、がんと診断を受けた日から将来に向けてたくさんの不安を抱えています。患者さんが少しでも不安を解消し、自ら前向きな気持ちで豊かな未来を考えていただけるように、患者サポートセンターでは、5つの部門がそれぞれ連携しあいながら、患者さんに寄り添い種々の支援を提供しています。

①**がん相談：**患者さんやご家族の他、地域の方々はどなたでも無料でご利用いただけます。
②**地域連携：**患者さんが継続して医療を受けられるように地域の医療機関と連絡を取り合って調整しています。
③**入院支援：**治療のために入院が決まった患者さんに安心して入院生活が送れるようにオリエンテーションや必要な物品の準備についての説明、相談を行っています。
④**退院支援：**退院後の療養環境の整備や地域医療機関の紹介・連絡調整を行っています。また、療養生活上の困りごとのご相談にも対応します。
⑤**医療福祉相談：**療養に伴って生じる心理的・社会的・経済的課題の解決に向けての支援や、地域関係機関との連携、社会復帰などのご相談に対応します。

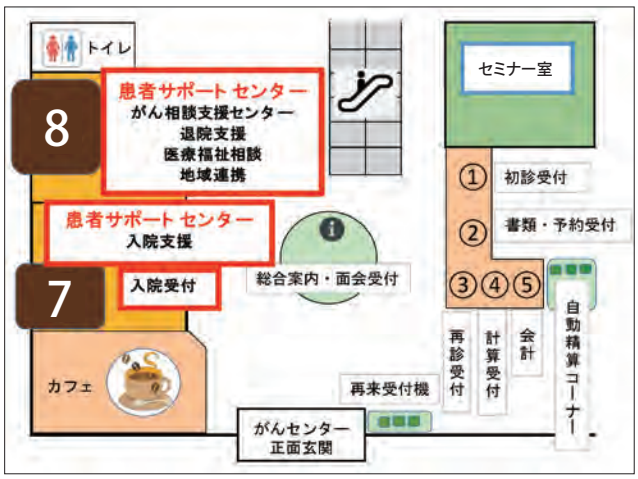
2 地域の先生方へ

先生方との連携を深め、患者さんを中心に地域全体で患者さんのがん診療、健康維持を完結できるような姿を目指していきたいと考えています。当センターでは医師も地域の医療機関に直接訪問してご挨拶をさせていただいております。

・C@RNAシステムを用いたオンライン予約での少しでも早い初診予約取得
・当センターでの治療が一段落した後の丁寧かつ遅延のない返書送付、2人かかりつけ医制度の推進
・がん情報サービスの提供、がん診療連携拠点病院としてのさらなる支援の質的向上などに力を入れています。

3 利用案内

患者サポートセンターはがんセンター1Fの正面玄関を入り、すぐ左手にございます。



責任者紹介

別府 武

副病院長
センター長

患者サポートセンターお問い合わせ窓口

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日除く）午前9：00～午後５：00
TEL：048-722-1111（代表）　FAX：048-723-0851（直通）

看護部

1 認め合い・支え合い・成長する看護部

「患者さんの権利を尊重し、質の高い看護を提供する」を理念に掲げ、患者さんとご家族の思いに寄り沿い、患者さん一人ひとりのその人らしさと生きることを支える看護を実践しています。また「がんで苦しむことのない世界を目指す」を実現するため、がん看護が体系的に学べる教育体系を構築し、チーム医療により患者さんにとっての最善な医療を提供しています。

2 看護部の方針

①患者さんのQOLを尊重し、専門的知識・技術に支えられた心のこもった看護を提供します。
②患者さんとそのご家族が十分な情報提供のもと、意思決定できるように支援します。
③経営的視点を持ち、効率的な看護業務の実践につとめます。
④職務上知り得た情報は、その保護に努め、他者との共有の時には、適切な判断で行います。
⑤多職種の専門性を尊重し、協働してがん医療の向上に貢献します。
⑥がんセンター職員としての自覚を持ち、豊かな人間性の涵養と自己のキャリア開発に努めます。

責任者紹介

福山 康恵

副病院長兼看護部長

専門看護師

がん看護	3名
在宅看護	1名

認定看護師

皮膚排泄ケア	2名
緩和ケア	4名
がん化学療法看護	4名
感染管理	2名
乳がん看護	2名
摂食嚥下障害看護	1名
手術看護	2名
集中ケア	1名
認知症看護	1名

放射線技術部

1 概要

放射線技術部は、画像診断、核医学、放射線治療の3部門を有しています。

画像診断部門では一般撮影検査をはじめ、CT検査、MRI検査、血管撮影・IVR、透視・造影検査、マンモグラフィ検査、乳腺超音波検査、骨密度測定などの装置を整備して画像診断情報および手術支援画像の提供などを行っています。

核医学部門では、FDG-PET検査、シンチグラフィ検査などの装置を整備し、画像情報に加えて機能的情報を提供しています。また、放射線を放出する薬剤（RI）を投与し、薬剤の体内挙動により病変を放射線で照射する治療法であるRI内用療法も行っています。

放射線治療部門では、正常組織への障害を少なくしながら標的病変に十分な放射線を照射可能な強度変調照射（IMRT）やピンポイントに腫瘍へ高線量を照射する定位照射（SRT）により、精度の高い放射線治療を行っています。

2 活動内容・特色

スタッフ31名（男性：18名、女性：13名）は業務スキル向上のために様々な認定を取得して専門性を高め、日々の業務に取り組んでいます。

責任者紹介

松本 智尋　部長

CT検査業務風景

放射線治療業務風景

取得認定

放射線取扱主任者（第一種）	7名
核医学専門技師	1名
X線CT認定技師	3名
検診マンモグラフィ認定技師	7名
乳がん検診超音波実施技師	4名
放射線治療専門技師	3名
放射線治療品質管理士	4名
医療情報技師	3名

＊その他、各種認定を有しています

検査技術部

1 概要

臨床検査室は生化学・免疫検査、一般検査、血液検査、輸血検査、細菌検査、生理検査、病理検査、遺伝子検査の8検査室と採血室で構成されています。また患者さんの急変時や手術に対応できるよう、輸血を含む緊急検査は24時間体制で実施しています。

がん専門病院の検査室として、骨髄移植関連検査、フローサイトメトリー検査、遺伝子検査・免疫染色、超音波ガイド下穿刺検査を実施しており、迅速な結果報告が治療の早期開始につながっています。

2 国際規格と精度保証

臨床検査の国際標準規格である「ISO15189」の認定を2018年11月に取得しISO規格の要求事項を遵守するために業務の継続的改善に努めています。

また質の高い臨床検査データ提供のため、日々の精度管理を実施するほか、各種学術団体の外部調査に参加し検査精度に対する第３者評価を継続して受けています。

3 実績

【2023年度の実績】

生化学・免疫・血液検査：2,569,233件　輸血検査：42,078件　細菌検査：23,151件

生理検査：33,815件　病理検査：23,102件　遺伝子検査：1,146件

責任者紹介

岡野 博信

部長

取得認定

認定輸血検査技師	4名
細胞治療認定管理師	4名
認定血液技師	3名
細胞検査士	5名
国際細胞検査士	3名
認定微生物検査技師	1名
超音波検査士	7名
認定心電検査技師	1名

薬剤部

1 概要

基本となる調剤室や注射薬室、医薬品情報室、薬剤管理指導、抗がん薬無菌調製等に加え、病棟薬剤師や患者サポートセンター（入退院支援）、多職種からなるチーム医療活動にもスタッフを配置しています。

2 特徴

通院治療（外来化学療法）センターに、抗がん薬調製室を隣接させることで、外来での抗がん薬投与を効率よく実施できるように工夫しています。また、新しい抗がん薬の開発を進めるため、複雑な手続きや管理が必要となる治験の支援も力を入れて取り組んでいます。

3 薬剤師外来

2024年度に新規診療報酬として認められた薬剤師外来には、2018年度から先駆的に取り組んできており、医師のタスクシフトや患者さん・ご家族が安心して外来化学療法を継続できる環境の支援を行っています。

【薬剤師外来実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
薬剤師外来件数	740	845	742	687	698
処方提案承認率	93.7%	96.8%	91.7%	94.2%	90.4%

（処方提案承認率：薬剤師が行った「医師の診察前面談」に基づき、副作用対策などの処方変更を提案した内容に対して、医師が処方変更した割合）

責任者紹介

大塚 公庸

部長

在籍薬剤師の主な資格・認定等

認定機関名	資格名	取得者数
日本医療薬学会	がん指導薬剤師	1名
	がん専門薬剤師	2名
日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	2名
	感染制御認定薬剤師	2名
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療専門薬剤師	4名
	外来がん治療認定薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会	緩和医療暫定指導薬剤師	2名
	緩和薬物療法認定薬剤師	3名
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	2名
日本褥瘡学会	日本褥瘡学会認定師	1名
日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法士	3名

栄養部

1 概要

栄養部では、「入院中の食事提供」、「栄養相談」、「栄養改善計画の作成と栄養改善（栄養サポートチーム活動を含む）」の面から、治療をサポートしています。

2 活動内容

病院の食事は治療の一環という観点から、栄養成分を管理しています。可能な限り「安全で」、「潤いのある」、「おいしい」食事づくりを心がけています。また日々の検食や皆様からいただいたご意見を基に常に見直しています。身体の状態によっては「食品の変更」、「量の変更」、「形態の工夫」などを行うとともに、「希望限定食」、「行事食」、「お誕生日カード＆ミニケーキ」を提供しています。患者さん一人ひとりの病態に応じて、管理栄養士による栄養相談を行っています。

2006年4月にNSTを設立し、主治医や担当看護師からの相談によって、管理栄養士をはじめとした医師・看護師・薬剤師・検査技師などが協力して栄養管理を行います。

入院前には必ず身長、体重、食事の摂取状況、治療状況などを確認し、栄養上の問題点がある場合には入院前から管理栄養士が介入し、担当の医師・看護師と相談の上、栄養改善計画を実施します。

また、今後は退院先のご施設とも連携を深め、栄養に関して必要な情報をお伝えできるよう努めてまいります。

スタッフ紹介

前川 哲雄	部長 (1,2)
武井 牧子	副部長 (1,2,3)
黒沢 望未	技師 (1,2)
山内 優	技師 (1)

1:管理栄養士　2:NST専門療法士
3:がん病態専門管理栄養士・研修指導師

臨床工学部

1 概要

臨床工学技士は、昭和62年(1987年)に誕生した国家資格です。医師の指示の下、生命維持管理装置の操作および保守管理を行う事を業とする医療機器を扱う医療職種で、医師をはじめ看護師などと共に医療機器の高度化・複雑化が一層進むなかチーム医療の一員として生命維持をサポートしています。現在、6名の臨床工学技士（うち1名は小児医療センターと兼務）と4名の助手が配置されています。業務は手術室やHCU等で医療機器の操作や保守管理を行っています。

2 実績

【2023年度の実績】

- ●ロボット手術業務：370件
- ●手術ナビゲーション：104件
- ●CART（腹水濾過濃縮再静注法）：54件
- ●CHDF（持続緩徐式血液濾過透析）：17日/5名
- ●末梢血幹細胞採取・骨髄濃縮：14件
- ●人工呼吸器点検・組立：364件
- ●医療機器の点検・保守・管理：25,733件
- ●医療機器に関する研修会・勉強会：25回

上記以外に院内で稼働する4,530台の医療機器を管理しています。また、医療安全管理委員会や関係セクションと連携し円滑な医療を提供できるように日々業務を行っています。

医療安全管理室

1 概要

院内の安全管理体制を組織横断的に確保する部門として、医療安全管理室が設置されています。医療安全管理室は、職員の安全意識の向上および病院システムの改善に努めるため埼玉県立がんセンターの医療安全管理指針に従って院内の医療安全対策を推進しています。

2 活動

医療安全管理室の主なメンバーは、医療安全担当副病院長（専任医師）、医療安全管理室長（専任医師）、医療安全管理者（専従看護師）で、管理室メンバーにて事例について事前に話し合い、医療安全管理室会議（週1回開催）、医療安全管理委員会（月1回開催）に提示し対策を検討、院内の安全管理体制の推進を進めています。

主な活動内容は、①インシデント・アクシデントレポートの収集　②医療安全職員研修　③画像・病理・内視鏡診断報告書既読・未読管理　③治療歴のない肝炎ウィルス陽性患者の診療連携管理　④医療安全に関する情報提供（医療安全管理室たより等）　⑤院内の安全ラウンドの実施　⑥他施設との連携・情報共有　⑦医療安全文化調査の実施　⑧医療安全推進月間の取り組み　⑨医療安全マニュアルの管理 ⑩医療事故発生時の対応などです。

職員の安全意識の向上と、患者さんへの安全な医療の提供につながることを目指し活動を継続しています。

感染管理室

1 概要

感染管理室は、患者さんやご家族、職員を医療関連感染から守り、安心で安全な療養・職場環境を提供するために感染対策の専門家で組織され、各部署と連携し活動を行っています。

【主な活動・実績】

①感染対策に関わる職員教育
②感染対策チーム（ICT）による環境ラウンド（週1回）
③抗菌薬適正使用支援チーム（AST）によるカンファレンス（週3回）
④医療関連感染サーベイランスと感染症発生時の対応
⑤感染防止マニュアルの作成と改訂
⑥職業感染防止対策の計画と実施

2 地域連携に向けた取り組み

2022年度から郡市医師会と連携して合同訓練を開催し、個人防護具着脱訓練を主に新興感染症に備えた対応を地域の先生方と実施しています。実際にクリニックを訪問して施設内の感染対策を一緒に考える活動も行っています。また保健所と連携して高齢者福祉施設向けの講義・訓練を行うなど、地域全体の感染対策向上への取り組みを行っています。

臨床腫瘍研究所

1 概要

研究所では新たながん治療の開発に向けての研究、がんの遺伝子診断、発がんのメカニズムなどを研究しています。さらにがん遺伝子診断による臨床支援、新薬開発、教育活動による地域貢献事業などに取り組んでいます。

2 研究と事業の内容

①基礎・トランスレーショナル研究として、新規がん治療薬（理化学研究所と共同）および新規がん診断法の開発（埼玉県企業と共同）を行っています。

②小児がん（神経芽腫、腎腫瘍）の分子診断：年間約130-150/約50例の腫瘍分子診断とその報告をしています。これによってこれらの小児がんの治療方針が決定され、小児がん治療に貢献しています。小児がんの基礎・トランスレーショナル研究で先進的な研究を行い、2024年度学会賞を受賞しています。

③がんセンター臨床科と共同での基礎・トランスレーショナル・臨床研究を行っています。

④バイオバンク業務：センターの患者さんの腫瘍検体保管による腫瘍遺伝子診断および腫瘍研究への試料提供のために、成人がん約7,700、小児がん1,400の検体を補完しています。

⑤がん遺伝子診断の支援（がんゲノム事業への協力）を行っています。

⑥サイエンスサロン（通算15回）、高校生向けサイエンススクール開催による県民の方々への知識普及・教育を行っています。

サイエンススクール（2024.8.21）

サイエンスサロン（2024.11.17）

スタッフ紹介

上條 岳彦　所長
安藤 清宏　副部長
大平 美紀、春田 雅之　がん診断担当
生田 統悟、和田 朋子、小貫 律子　がん予防担当
竹信 尚典、迎 恭輔、佐藤 俊平　がん治療担当

アクセス

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780番地

埼玉新都市交通ニューシャトルをご利用の方

- 大宮駅から丸山駅まで　約15分
- 丸山駅から　徒歩約15分

※丸山駅から有料シャトルバス運行

バスをご利用の方

- 高崎線上尾駅東口から病院敷地内まで乗り入れ
- 宇都宮線蓮田駅西口から病院敷地内まで乗り入れ

お車をご利用の方

- 国道17号線
  上尾市役所前交差点を東へ　約3km
- 県道さいたま栗橋線
  関山1丁目交差点を西へ　約3km
- 駐車場台数638台（無料）

※臨床腫瘍研究所から病院へは車での通り抜けはできません

フロアマップ

■外来は1階、2階で 受付→診察→検査→治療→会計 が完結
■ホスピタルストリートの周囲に相談支援センター、カフェ、コンビニ、レストランなどの利便施設を配置
■4階に個室病棟、5階から9階に一般病棟（無菌病棟）、10階に全室個室の緩和ケア病棟を配置

※9階は無菌病棟を含むため一部異なります。

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構
埼玉県立がんセンター

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780番地
TEL:048-722-1111(代表)／048-722-3333(予約専用)　FAX:048-722-1129
https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/

埼玉県立がんセンター 調査研究